



## 創立50周年を迎えて

青森県知事 三村 申吾

青森県ふるさと食品研究センターの前身である青森県水産物加工研究所が昭和31年に発足してから創立50周年を迎えました。

本県は太平洋、津軽海峡、日本海と三方を海に囲まれ、中央部には我が国有数の大型内湾の陸奥湾を抱え、古くから豊かな自然がもたらす海の幸に恵まれ、全国有数の水産県として発展してきました。これらの水産資源を活用した水産加工業を支えてきたのが研究陣であり、イカやサバ、ホタテガイ等地場産品の付加価値向上を目指し、本県の水産加工業の発展に尽力して参りました。これまで活躍してこられた関係の皆様に対し心から敬意を表します。

水産業を取り巻く環境は、200海里体制の定着に伴う諸外国の漁業規制の強化や、沿岸・沖合資源の減少など厳しさを増していることから、今後、水産資源の管理や増養殖への取組みを強化するとともに、水産加工の維持発展を図っていくことが極めて重要であるものと考えています。また、近年は、国民の食品に対する安全・安心の意識が高まっているほか、ライフスタイルの変化に伴う消費者ニーズの多様化など、農林水産業をめぐる環境は大きく変化しています。

こうした状況に対応するためには、優れた産品を優れた商品として売り込む力を高めながら消費者ニーズに合わせて生産販売するといった消費者起点の発想に転換していく必要があります。県では、このような考えに基づいて、生産から流通・販売までを結びつけ、消費者が求め、必要とする安全・安心で良質な県産農林水産物やその加工品を生産し、売り込んでいくという農林水産業の収益性の向上を重視した「攻めの農林水産業」を強力に展開しているところです。

この推進に当たっては、ふるさと食品研究センターの担うべき役割は大きく、県産農林水産物を活用した付加価値の高い優れた加工品の開発と、その商品化への取組みを一層強化し、本県の基幹産業である農林水産業の更なる発展に努めて参りますので、今後とも皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。